

○保育士 A 専門試験問題例

問1 保育所保育指針第1章総則に関する次のA～Fの記述について、(1)～(10)にあてはまる語句を下記の語句群から選び、記号で答えなさい。

- A 一人一人の子どもの状況や家庭及び地域社会での生活の実態を把握するとともに、子どもが(1)と信頼感をもって活動できるよう、子どもの(2)としての思いや願いを受け止めること。
- B 子どもの生活のリズムを大切にし、(3)、安全で情緒の安定した生活ができる環境や、(4)を十分に発揮できる環境を整えること。
- C 子どもの発達について理解し、一人一人の(5)に応じて保育すること。その際、子どもの(6)に十分配慮すること。
- D 子ども相互の関係づくりや互いに(7)する心を大切にし、集団における活動を効果あるものにするよう援助すること。
- E 子どもが自発的・意欲的に関われるような環境を構成し、子どもの主体的な活動や子ども相互の関わりを大切にすること。特に、乳幼児期にふさわしい(8)が得られるように、生活や遊びを通して(9)に保育すること。
- F 一人一人の保護者の状況やその意向を理解、(10)し、それぞれの親子関係や家庭生活等に配慮しながら、様々な機会をとらえ、適切に援助すること。

【語句群】

ア. 自己	イ. 発達過程	ウ. 理解	エ. 尊重	オ. 気持ち
カ. 安心感	キ. 個人差	ク. 状況	ケ. 満足感	コ. 体験
サ. 受容	シ. 主体	ス. 健康	セ. 健康状態	ソ. 総合的

問2 次のA～Eの文章の下線部分について、正しいものには「○」を、間違っているものには「×」を正誤欄に記入し、「×」の場合は下線部分の正しい記述を記入しなさい。

- A 食物アレルギーについて乳幼児期では、鶏卵・乳製品・大豆が主な3つのアレルゲンである。
- B 「食物アレルギー」とは、特定の食物を摂取した後にアレルギー反応を介して皮膚・呼吸器・消化器あるいは全身性に生じる症状のことをいう。そのほとんどは食物に含まれるカルシウムが原因で起こる。
- C 厚生労働省が「保育所における食事の提供ガイドライン」により示した、避けたい「こ食」のうち、同じ物ばかり食べることを「個食」という。
- D 保育所における食育は、健康な生活の基本としての「食を楽しむ力」の育成に向け、その基礎を培うことを目標とする。
- E 離乳食で卵を与える時は、固ゆでの卵黄から始め、様子を見ながら全卵へと進めていく。

問3 次のA～Fの記述について、正しいものには「○」を、間違っているものには「×」を記入しなさい。

- A インフルエンザの出席停止期間のめやすは、乳幼児の場合、発症した後3日を経過し、かつ解熱した後2日を経過するまでである。
- B 保育所では、集団での午睡や食事、遊び等の活動時に接触の機会が多く、飛沫感染や接触感染が生じやすい。
- C 水痘（みずぼうそう）の出席停止期間のめやすは全ての発疹が消失するまでである。
- D 感染性胃腸炎はノロウイルスやロタウイルスに感染することが原因である。
- E 感染症を防ぐには、感染症成立の三大要因である感染源、感染経路及び感受性への対策が重要である。
- F 0歳児の子どもの気道異物による窒息がわかった時は、腹部突き上げ法（ハイムリック法）を実施する。

問4 保育所保育指針第4章子育て支援に関する次の記述について、(A) ~ (E) にあてはまる語句の正しい組合せを一つ選び、番号で答えなさい。

- ・ 保育の (A) に対する保護者の積極的な参加は、保護者の子育てを自ら実践する力の向上に寄与することから、これを促すこと。
- ・ 保護者の就労と子育ての両立等を支援するため、保護者の多様化した保育の需要に応じ、(B) 事業など多様な事業を実施する場合には、保護者の状況に配慮するとともに、子どもの(C) が尊重されるよう努め、子どもの(D) を考慮すること。
- ・ 地域の要保護児童への対応など、地域の子どもを巡る諸課題に対し、(E) など関係機関等と連携及び協力して取り組むよう努めること。

	A	B	C	D	E
①	活動	病児保育	福祉	生活の連続性	要保護児童対策地域協議会
②	活動	病児保育	人権	最善の利益	児童相談所
③	行事	病児保育	人権	最善の利益	要保護児童対策地域協議会
④	行事	休日保育	人権	生活の連続性	要保護児童対策地域協議会
⑤	行事	休日保育	福祉	生活の連続性	児童相談所

問5 保育所保育指針第2章保育の内容に関する次の①～⑩の記述について、発達の特徴を踏まえ、「1歳以上3歳未満児」と「3歳以上児」それぞれの5領域（「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」）に分類し、番号で答えなさい。

- ① 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。
- ② 保育士等や友達と触れ合い、安定感をもって行動する。
- ③ したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする。
- ④ 玩具、絵本、遊具などに興味をもち、それらを使った遊びを楽しむ。
- ⑤ 日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ。
- ⑥ 親しみをもって日常の挨拶に応じる。
- ⑦ 水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて楽しむ。
- ⑧ 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。
- ⑨ 保育士等や周囲の子ども等との安定した関係の中で、共に過ごす心地よさを感じる。
- ⑩ 様々な食品や調理形態に慣れ、ゆったりとした雰囲気の中で食事や間食を楽しむ。

問6 3歳児のAちゃんのお母さんが迎えに来て保育室の外で待っている。保育室内で遊んでいるAちゃんにお母さんが迎えに来たことを伝えると、「帰りたくない」となかなか帰ろうとしない。Aちゃんに帰りたくない理由を聞くと「お母さん、こわいから」という返事が返ってきた。この時、Aちゃんの担任であるあなたはどのように対応するか述べなさい。

問7 保育所において、重大事故が発生しやすい場面に「睡眠中」があるが、睡眠中の注意事項について述べなさい。

問8 保育所から小学校への円滑な接続に向けて、幼児が小学校入学までに身につけておくべきことについて、あなたの考えを述べなさい。(800字程度)